



Japan Association of
Music Publishing

日本楽譜出版協会会報

2021年(令和3年)1月 第35号

■ 楽譜出版の展望！ 楽譜出版の役割 ～こういう時代だからこそ～

一般社団法人 日本楽譜出版協会
会長 佐々木隆一

2021年がコロナとの戦いで人類が勝利する年となるよう祈念しております。昨年は政治、経済、社会、文化のあらゆる分野がコロナ禍で変容しました。DX（デジタルトランスフォーメーション）という言葉が経営者にとって、会社経営の重要なキーワードになりました。

日本はあらゆる分野で先進国の中でもデジタル化が遅れている国ということが露呈した年でした、コロナ感染対応で日本の保健所がFAXで対応しているときに、台湾や韓国などではスマートフォンAPPでマスクの販売や感染経路の把握が可能なAPPを速やかに開発し、感染対策を実践していることが大きな話題となりました。日本では慌てて、デジタル庁を創設し、行政や教育のデジタル化に取り組むことになりました！

出版産業ではより鮮明に電子出版へのシフトが進んでいます。電子書店の売上は対前年比130%前後の伸びを記録しており、一気に3年分の成長を果たしたと思います。リアル店舗の閉店や低迷が続く中、EC書店や電子書店が大健闘しているのは、コロナ禍でよりデジタル進化の速度が早まっております。

楽譜出版におきましてもEC販売や電子楽譜サイト販売などが大きく売上げを伸ばしているとの報告をいただいているところです！コロナ禍で特にテレワークやオンライン授業が拡大したことで、関連の商品や本が売れたことは、時代の変化とデジタル環境の速度を早めた効果といえます。コミックも楽譜も「鬼滅の刃」効果は極めて大きく、ついでにと言っては語弊がありますが、全体の需要を大きく広げた効果は絶大です。

今後の企業活動で重要なポイントはDX（デジタルトランスフォーメーション）に尽きるころです！企業運営で言えば、企画から制作・製作・販売（流通）までの全てのプロセスでデジタル化を進めないと効率的な経営を維持できなくなるところです！新しいシステムやプラットフォームの導入で経営者から社員まで、スキルアップを大胆に進める必要があります。マーケットオリエンテッドを基本に、いち早く顧客ニーズに応える、DX強化でユーザーと直結する情報システムや流通システムなどが重要な武器になります。

コロナ禍においていかに音楽の存在が重要であるかを多くのメディアを通じて確認されたことも、音楽産業人として勇気をいただいたような気がします！コンサートが開催できない状況でクラシックやPOPSなどで多くのライブ配信が事業として大きく成長したことは、デジタル時代の音楽事業の新分野と言えます。コロナ禍で楽器を弾きたい、ネットで音楽を習いたい、仲間とネットで歌ったり、合奏したりなどとプロアマ問わず、ネットの活用が自発的に大発展しました。その結果、身近に楽しめる楽器や楽譜が売れたことは業界にとっていい情報です！

また、コロナ禍で渡航制限が厳しい状況の中で、11月にウィーン・フィルの来日公演が日本政府およびオーストリア政府の特別許可により敢行されたことは、我々に大きな夢と感動を我々に与えてくれました！

音楽の夢と感動と希望を伝える仕事が楽譜事業者である我々の最も大きな仕事です！2021年が音楽界と楽譜業界にとって希望の年となるよう祈念してご挨拶とさせていただきます。

■授業目的公衆送信補償金制度について

文化庁著作権課長
岸本 織江

学校等の授業の過程における著作物の利用については、著作権法第35条に例外規定（権利制限規定）が設けられており、従前から、権利者の許諾なく、「複製」や対面授業の様子を遠隔地に同時中継する場合の「公衆送信」（インターネット送信）を行うことが可能とされていました。しかしながら、同時中継以外の「公衆送信」については個別に権利者の許諾を得る必要があり、ICTを活用した教育の推進が困難となっているという指摘がされていました。

このような課題を解決するため、平成30年の著作権法改正によって「授業目的公衆送信補償金制度」という仕組みが設けられました。この改正は、当初、令和3年4月からの施行が予定されていましたが、新型コロナウイルス感染症の流行に伴うオンライン教育等のニーズに緊急的に対応するため、当初の予定を早め、令和2年4月28日から施行されています。

本制度の施行により、対面授業の同時中継（遠隔合同授業等）を除く、著作物の公衆送信全般について、教育委員会や学校法人などの教育機関の設置者が文化庁の指定管理団体「一般社団法人授業目的公衆送信補償金等管理協会（サートラス）」に一括して補償金を支払うことにより、無許諾での著作物の利用が可能となりました。例えば、対面授業の予習・復習用の資料をメールで送信、対面授業で使用する資料を外部サーバー経由で送信、オンデマンド配信授業において講義映像や資料を送信、スタジオ型のリアルタイム配信授業において講義映像や資料を送信といったことが当てはまります。

本制度により、あらゆる種類の著作物利用について、ワンストップの指定管理団体を通じ権利の一括処理が可能となります。オンライン授業等での著作物等の利用を促進し、教育などの未来への投資に生かしつつ、一方で、作家や作曲家、画家といったクリエイターへの対価還元により次なる創作を促すのが本制度の意義です。

補償金の額については、令和2年度は、今般の事態の緊急性・重要性等に鑑みた権利者側の配慮により、特例的に無償（0円）とされていますが、

令和3年度からは、有償となることとなっており、令和2年12月18日付で文化庁長官により補償金額が認可されています（児童生徒等1人当たり年額：小学校120円、中学校180円、高校420円、大学720円など）。

なお、公衆送信に当たっては、従来から可能であった複製の場合と同様、著作権法第35条に規定された要件を遵守し、権利者の利益を不当に害しないよう注意する必要があります。例えば、学校での購入を想定したドリルや問題集、部活動で使われる楽譜などを教員や生徒等による購入等の代替となるような状態で複製・公衆送信することや、児童生徒等以外が広く閲覧できるような形態でインターネット公開することなどはできません。この点に関しては、権利者団体と教育関係者が共同で「著作物の教育利用に関する関係者フォーラム」を設置し、ガイドライン（運用指針）を策定しております（「改正著作権法第35条運用指針（令和3（2021）年度版）」（令和2年12月24日 著作物の教育利用に関する関係者フォーラム））。

文化庁としては、本制度の円滑な実施により、オンライン教育の本格化に向けて、著作物の利用円滑化とクリエイターへの適切な対価還元的好循環を実現することを目指してまいります。

著作権行政に関する引き続きの御理解・御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、貴協会の御発展を心よりお祈り申し上げます。年頭の御挨拶とさせていただきます。

（関連情報）

○授業目的公衆送信補償金の額の認可について（文化庁）

<https://www.bunka.go.jp/seisaku/chosakuken/92728101.html>

○認可関係資料（サートラス）

<https://sartras.or.jp/ninka/>

○「改正著作権法第35条運用指針（令和3（2021）年度版）」を公表（著作物の教育利用に関する関係者フォーラム）

<https://forum.sartras.or.jp/info/005/>

■2021年新たな年を迎えて『大切にしたいこと』

一般社団法人 日本楽譜出版協会
理事長 下條俊幸

会員各社の皆さまには、コロナ禍という誰もが経験したことのない大きな災禍の中にあっても、新たな年に向けて、少なくとも不安感と同量な、否、それ以上の希望と期待を膨らませつつ日々奮闘されておられることと思います。

昨年は春先からのコロナ禍による生活環境の激変に伴い、会員各社それぞれの事業活動自体のスタイルの変化を余儀なくされ、まさに『コロナ』に翻弄され続けた一年であったのではないのでしょうか。ご承知の通り、当協会活動におきましても、販売対策委員会管轄での「楽譜・音楽書祭り2020」は、時期を変更し、例年同様開催できたものの、隔年で実施する『2020楽器フェア』については、エンドユーザーと直接繋がる唯一の機会であるリアルイベントは中止となり、大幅に規模を縮小しオンライン開催となったのは、社会環境を考慮した当然の結論と納得しつつも大変残念な思いが致します。また著作権委員会におきましても、夏の講座の中止だけに収まらず、秋開催の研修会も見合わせざるを得ない状況となったこと等々、一年を通じて、消化不良という感が否めなくもありません。一方で、長年の懸念事項であった協会財政問題につきましては、10月に開催された臨時総会にて、会員各社のご理解とご賛同を得て、「特別年会費改定議案」が可決されました。当協会最大の不安材料が払拭され、今後の継続かつ安定的な協会運営が可能となる環境が整備されたことは、理事会と致しまして一定の役割を果たすことが出来たのではないかと考えているところです。

さて、新たな年を迎えるにあたり、例年その準備として、先ずは「実現できなかったことを洗い出し、もう一度整理し直し、市場の変化に合わせ、戦略と優先順位を練り直す」という、自分なりの総括とともに新たな年に向けてのプランニングの手法を、今回も踏襲し、その準備にとりかかり始めましたが、全く作業が進行しません。動脈硬化を起こしたかと疑ってしまう程、発想が浮かばないのです。当然です。それは変化のない安定的で健全な環境が大前提であったからです。

2020年、私たちは社会環境の大きな変化をま

さに全身で体験することになりました。仕事上の身近なところでも、新語含めさまざまなワードが飛び交いました。「ソーシャルディスタンス」、「時短」、「リモートワーク」、「オンライン〇〇」等々。挙げ始めたら、枚挙に暇がない程です。それは、そのワードの中に「制限」と云うマイナスをイメージするもの、あるいは環境関連であったり、反対に厳しい中でも「可能性」を感じさせるプラスの印象を持つ言葉であったり。過去にこれ程、両極ともいえる言葉を、同時に触れることがあったでしょうか？

大きく変化していく生活環境の中で、新たな規範、当たり前に変化するそれぞれの基準に翻弄され、それでも時間をかけながら、柔軟に受け入れつつ、やっとその変化についていけるだけの準備が出来た一年であったと思います。

つまり、従来の手法と経験則だけに偏った思考では、大きく変貌するこれからの時代に向けて、希望と期待を込めた具体的なアクションをイメージするにはとても困難であることに気がつきました。

新型コロナウイルス感染症が、一定の「収束」への可能性はあっても、完全に「終息」することはないでしょう。先ずは、この環境を受入れなければなりません。また、学校教育の現場では「合唱及びリコーダー、鍵盤ハーモニカ等の管楽器演奏」について、感染リスクの高い学習活動であると特定されたことは、彼等の演奏活動を側面から応援する私たちの責任として「残念」という言葉で片付けるのではなく、この状況でも安全に配慮した上で、仲間とともに『歌いたい』、『演奏したい』という、若い人たちの純粋なその気持ちを正面で受け止め、この環境の下でも、それぞれの事業活動と当協会活動で、どのような応援が出来るかを真剣に考えていくことが大事なポイントではないのでしょうか。

環境が大きく変わっていく今だからこそ、新しい発想への智恵と、より演奏者に寄り添った活動を実行して参りたいと思います。

会員各位はじめ、関係団体、流通を支えて戴いている業界の皆さまには、何とぞご理解とご協力を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

委員会活動報告



販売対策委員会

販売対策委員長 野田修市（ドレミ楽譜出版社）

今年度の販売対策委員会の主な活動は、例年行っている「楽譜・音楽書祭り」（2020年第8回）の企画・運営と隔年行われている「楽器フェア」における販売ブースの出展と運営でした。「楽譜・音楽書祭り」については、実行委員長より別項で詳細を記します。「楽器フェア2020」は、コロナ感染症の影響で中止となりました。両活動に関して、4・5月には、委員会

著作権委員会

著作権委員長 木村一貴（カワイ出版）

あけましておめでとうございます。
昨年2020年は、新型コロナウイルス対策に伴う教育機関のオンライン需要増大のため、授業目的公衆送信補償金制度が4月に前倒し施行され、流動的にガイドラインが示されました。また、オンラインレッスン等での音楽利用も活発になっており、今年2021年以降も著作権をめぐる状況はさらに流動的に変化していくことが予想されます。

制作委員会

制作委員長 新居隆行（全音楽譜出版社）

制作委員会では2年に1回を目処として、会員各社の編集・制作に携わる方々を対象とした研修会を実施しています。今年度はその実施する年にあたるため、なにか皆さまのお役に立てる研修会を企画し開催する予定でした。しかしながら新型コロナウイルスの感染拡大という思わぬ事態が生じてしまい、今年度の実施はやむなく見送ることといたしました。緊急事態宣言が出されたこともあり、多くの方が在宅勤務を余儀なくされたことと思います。各社の

広報委員会

広報委員長 下條俊幸（全音楽譜出版社）

今年度の活動は、例年実施する「楽譜・音楽書祭り」での開催告知、併催するディスプレイ大賞の情報掲載、会報の発行、ホームページ定期更新、さらに「楽器フェア」の広報等を、活動の軸として計画し実行しております。ご承知の通り、『2020楽器フェア』につきましては、コロナ禍の影響で、開催そのものが中止となり、私たちがエンドユーザーと接する貴重な催事

として理事長及び日本楽譜販売協会会長などと、「実施・中止・延期」に対するスタンスなど、確認や協議を重ね非常事態の中で責任ある行動という観点も踏まえて、推進してまいりました。3月に前委員長が退職により離職、以後、新体制で活動しておりますが、感染症対策として、全体での委員会の開催は控えております。また、本年も活動に関しては、実行委員会と参加社を中心として進めざるを得ないと考えております。心苦しくはございますが、ご理解を願いたく存じます。

2020年度の著作権委員会は、7月に「著作権講座」、11月に「著作権研修会」の開催を予定しておりましたが、状況を鑑み中止としました。また、日常の委員会活動では在宅勤務の委員も多く、参集を見送りメール主体で情報交換致しました。

2021年度も情勢が急速に好転することは考えづらく、毎年多くの皆様から関心をお寄せいただいている「著作権講座・研修会」に代わる案として、著作権レポートの発信やオンライン講座開催を検討しております。引き続き、ご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

編集者の皆さまもさぞかしご苦労なされたのではないのでしょうか。打ち合わせができない…、プリントアウトはどうしよう…、インフラが…PCが…ソフトが…フォントが…。委員会のメンバー間で情報交換をおこなった限りでも、じつに多くの問題が浮き彫りになりました。

一日も早いコロナ禍の収束を祈るばかりですが、不測の事態はいつ訪れるかわかりません。そして働き方改革が盛んに取り沙汰される昨今。「編集者のテレワーク」をテーマにした研修会なども検討してみたいと思っています。

での広報が叶わなかったのはとても残念なことでした。それ以外は、概ね過不足なく活動しているところです。

今後、社会でのコロナ対応による、生活スタイルの変化が、どのような形で楽譜市場に影響を及ぼすのか。その流れによっては、当然、私たちの視点も変われば、各社の事業方向性も大きく変化していくことにもなるでしょう。その変化を正確に捉え、各社事業に有益に働くよう協会の主張として広く発信していくことに注力し活動して参りたいと考えております。

委員会活動報告

＜新設委員会＞

●SARTRAS 関連対策特別委員会の「2020年度の活動報告と2021年度の活動予定」

SARTRAS 関連対策特別委員長 今井康人（教育芸術社）

昨年4月28日に「授業目的公衆送信補償金制度」が開始されました。これはICTを活用した教育を推進すべく改正された著作権法第35条の趣旨に則り、教育目的の公衆送信利用に際して発生する補償金を徴収し、権利者に分配する制度です。

本来は本年5月24日までに実施される予定だったのですが、昨年来のコロナ禍の中で授業のオンライン化が急速に進んだことから、前倒して実施されることとなったものです。そして今年度中は、本来発生する補償金はゼロとなっています。その後SARTRASで、補償金額や運用規程について検討し、来年度からの補償金徴収及び分配に向けての整備を行っているところです。

当協会では、SARTRASの業務に関する情報を

ネットワーク委員会活動報告

ネットワーク委員長

北村嘉孝（ジャパン・ミュージックワークス）

皆様、新年あけましておめでとうございます。昨年ネットワーク委員会の委員長を木村一幸氏から引き継ぎましたジャパン・ミュージックワークスの北村嘉孝です。本年も何卒宜しく願い申し上げます。

ネットワーク委員会では定期的な会合を年間3回程度行い、幅広いネットワークをテーマに情報共有を図っております。

昨年度2月にJASRACとの意見交換会を実施いたしました。4者（当協会ネットワーク委員会、AMEI電子出版部会、ヤマハ(株)、(株)ヤマハミュージックエンタテインメントHD）にて作成しました「楽譜利用に関するアンケート調査」の情報をJASRACと共有することで楽譜を取り巻く環境を直接伝えることができ、また参加者の皆様方からも多くの質疑応答があり、これからの楽譜を考える上で大変貴重な場となりました。次回開催に当

収集し、特に楽譜、すなわち音楽の「可視的利用」を中心として、授業目的利用といえども、「著作権者の利益を不当に害する可能性が高い」利用に関しては、無断利用、無償利用、さらには低廉な補償金での利用をされることのないように監視する、という意味でSARTARS関連対策特別委員会が設置されました。今年度は、当協会会員者の業務に不利益を与えないかをチェックするとともに、学校の授業でのさまざまな音楽、楽譜等の利用について実態把握を行いました。来年度は、具体的にどのような運用をされるのか、正確な把握に努め、不利益が生じないよう協会内の総意に基づき活動を進めていきたいと思ひます。

たりましてはJASRAC側とも協議し、リモート環境での開催も視野に入れて定期化の方向を模索していきたいと思ひます。実現に向けては理事会・運営委員会とも課題を整理した上で取り組み、会員社の皆様にもご協力をお願い致します。

また今年度は、11月には当協会ホームページ上に楽譜利用についてのご報告フォームを設置しました。皆様からご意見を頂戴し委員会で情報共有できればと思っております。

5Gの整備などネットワークインフラが充実されていく中で、2021年度のネットワーク委員会ではSNS上での適正利用の啓蒙、ICTでの楽譜利用、最新技術情報の共有など、ネットワークの活用について議題にし勉強会等も検討してまいります。

皆様方のご支援ご協力の程、何卒宜しく願い申し上げます。

関連団体活動報告

文化芸術推進フォーラム 2020年度の活動

(一社) 日本楽譜出版協会 理事・事務局長 島 茂雄

2020年度の活動は、(1) 新型コロナウイルス感染状況と文化芸術の打撃を見極め、「文化芸術復興基金」への予算支出を含め必要に応じ国会、政府に対して各界と連携し提言活動を強力に進める。(2) 文化芸術省の必要性についての認識の高まりを踏まえ、キャンペーンを強力に進める。2月末に新型コロナウイルス感染拡大防止対策として出された文化芸術イベント

活動自粛要請と4月に政府の緊急事態宣言で国民活動の自粛により経済的打撃を負った文化芸術活動に携わる実演家やスタッフ、企業・団体にとって、危機的な状況下、我が国の文化芸術活動を存続させるために、政府に対して、文化芸術振興議員連盟と連携して、事業継続支援や専門人材の職能継続支援等の緊急提言を行いました。

6月に文化芸術振興議員連盟の

総会が開催され、新型コロナウイルス関連の文化芸術関係者への支援策について、文化庁、厚生労働省、経済産業省、内閣府等の支援策について発表され、令和2年度2次補正予算で「文化芸術・ライブエンタメ分野向け支援策予算合計約1,500億円」が国会を通過したことで実施されるとの発表がありました。

楽譜コピー問題協議会 (CARS) 「2020年度活動」

(一社) 日本楽譜出版協会 理事・事務局長
CARS 幹事 島 茂雄

2020年度の通常総会と幹事会で決定されました主な活動内容は、
①楽譜の無断コピーに関する啓発活動。改正著作権法第35条及び2020年4月16日付けで「著作物の教育利用に関する関係者フォーラム」が発表した「改正著作権法第35条運用指針」(令和2年版)に適合するよう、CARSの「楽譜コピーQ&A」の見直を行ない、「2020年度版楽譜コピーQ&A」を作成しました。

②楽譜の無断コピーに関する調査研究。昨年度実施したウェブアンケートの結果を精査し、ウェブやブログ閲覧者等の集計を行い、SNSを活用したウェブサイトの修正を行うことを検討しています。

③各種関係団体、音楽関係者等との交流及び情報交換。文化庁著作権課普及係より「令和2年度著作権セミナー」(教育委員会を通じて、一般、教職員、図書館司書関係者対象)に対して協力の依頼

がありCARSの「2020年度版楽譜コピーQ&A」他を資料として提供しています。

④その他本会の目的を達成するために必要な事業。授業目的公衆送信補償金制度の本格的な運用が2021年度から開始されるのに合わせてさらなる改訂が予想されている運用指針について、フォーラムにおける議論の過程を注視し、来年度に向けて準備を行う予定です。

JCOPY 2020年度の活動

(一社) 日本楽譜出版協会 理事・事務局長 島 茂雄

6月の理事会・総会では、昨年度の事業報告、収支決算が承認されました。事業報告では、JCOPY創設以来の収入の中心だったドキュメントサプライヤーの外部頒布利用が減少したため、徴収額の減少を余儀なくされたこと、教育機関向けのライセンス体制整備のための使用料規程改定準備を進めたこと等が説明されました。年度末の受託管理著作物は、紙媒体複製許諾が書籍約21万8千点、雑誌

920点、電子媒体複製許諾が書籍約6万1,900点、雑誌536点でありました。決算では、複写権使用料収入が、約4億934万円で、うち16.5%に当たる約6,743万円を管理手数料に充当されました。

運営委員会では、SARTRASにおける来年度の授業目的公衆送信補償金およびライセンス体制構築に関する準備状況が報告され、SARTRASが行うライセンス体制の構築については、JCOPY等の

既存の管理事業者からの再委託が想定されているが、これに関して、使用料規程、利用許諾契約書等の案についての意見交換が行われました。また、SARTRASが行う基礎ライセンスへの対応のために、JCOPY 運営小委・出版教育著作権協議会運営委員会のメンバーも合同で行い、基礎ライセンスへの対応について検討しました。

「楽譜・音楽書祭り2020」～第8回を迎えて～ ご報告

「楽譜・音楽書祭り2020」
実行委員会委員長 春日井 健

今年度で第8回目となりました「楽譜・音楽書祭り」はご存知の通り未曾有のコロナ禍の中開催も危ぶまれましたが、例年通り「6月6日は楽器の日」を挟む、5月15日から8月31日の期間で行われました。緊急事態宣言の為休業店舗様もある中の異例のスタートとなりましたが、無事に開催出来ました事は関係者の皆様のご支援ご協力無しにはあり得ませんでした。この場をお借りしまして御礼申し上げます。

今年度のキャンペーンですが、昨年度の応募総数を上回る事が出来ました。コロナ禍と云うこともありネットでの購入も多かったのですが、店頭で購入された方も多く自粛ムードの中一定以上の結果が出た事には大変満足しております。

今年度は昨年の12月から実行委員会を立ち上げて準備を進めて参りました。エントリー点数は新刊既

刊併せて96点と昨年の106点から減数したにも関わらず、キャンペーン用帯に応募葉書を組み込むという新しい試みも功を奏したのか、繰り返しにはなりますが、結果に結びついたのではと感じております。

併せて今年度も2017年から開始しましたディスプレイ大賞に多くの楽器店、書店様からご参加頂きました。お祭り感を演出して頂きこの場をお借りして御礼申し上げます。

現時点で(11月下旬)2021年度の開催も決定しております。今年中には実行委員会を中心として来年度のベースを作る予定です。楽譜音楽書祭りがお客様の購買欲を駆り立て、お店にも足を運んで頂ける物であるよう、試行錯誤しながら邁進して行ければと思っております。

一般社団法人 日本楽譜出版協会 組織

令和2年10月1日

会長	佐々木隆一 / (一社) 著作権情報集中処理機構 会長	制作委員会	
名誉顧問	内田 豊 / 初代責任理事	委員長	新居隆行 / (株) 全音楽譜出版社
理事長	下條俊幸 / (株) 全音楽譜出版社	副委員長	川元啓司 / カワイ出版 (株) 全音楽譜出版社カワイ出版部
副理事長	片岡博久 / (有) ケイ・エム・ピー	副委員長	三須友裕 / 東京書籍 (株)
副理事長 兼 会計理事	時枝 正 / (株) 音楽之友社	ネットワーク委員会	
理事	森田敏文 / (株) シンコーミュージック・エンタテイメント	委員長	北村嘉孝 / (株) ジャパン・ミュージックワークス
理事 兼 事務局長	島 茂雄 / (一社) 日本楽譜出版協会 事務局	副委員長	久保貴靖 / (株) フェアリー
監事	鈴木廣史 / (株) サーベル社	副委員長	河合正仁 / (株) シンコーミュージック・エンタテイメント
監事	久保貴靖 / (株) フェアリー	広報委員会	
顧問	本橋慎弥 / 前理事・前事務局長	委員長	下條俊幸 / (株) 全音楽譜出版社
販売対策委員会		副委員長	富澤勇次 / (有) 中央アート出版社
委員長	野田修市 / (株) ドレミ楽譜出版社	副委員長	片岡新之助 / (有) ケイ・エム・ピー
副委員長	春日井健 / (株) シンコーミュージック・エンタテイメント	SARTRAS関連対策特別委員会	
副委員長	服部太一 / (株) リットーミュージック	委員長	今井康人 / (株) 教育芸術社
著作権委員会		副委員長	山田真孝 / 教育出版 (株)
委員長	木村一貴 / カワイ出版 (株) 全音楽譜出版社カワイ出版部		以上
副委員長	山田真孝 / 教育出版 (株)		
副委員長	千野有紀子 / ヤマハミュージックエンタテイメントホールディングス		

合計 **606** 名様に **JCB** 楽器店でも使える **ギフト・カード** 6月6日は楽器の日

A賞 20,000円 5名様 **C賞 手づくり ウクレレキット 10名様**

B賞 10,000円 5名様 **D賞 バード コールキット 16名様**

W賞 クオカード500円 570名様 (A~D賞に外れた応募者から抽選)

楽譜・音楽書祭り2021 2021年5月17日~8月31日

参加予定出版社: エー・ティー・エヌ、音楽之友社、学研プラス、カワイ出版、ケイ・エム・ピー、自由現代社、春秋社、シンコーミュージック・エンタテイメント、全音楽譜出版社、東音企画、ドレミ楽譜出版社、日研、ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス、ライリスト社、リットーミュージック

主催: 一般社団法人日本楽譜出版協会
共催: 日本楽譜販売協会、一般社団法人全国楽器協会

詳しくは www.j-gakufu.com



「一般社団法人日本楽譜出版協会」加盟社一覧 (五十音順) (2020年[令和2年]11月1日現在)

会社名	代表者	住所	ホームページ
アルソ出版(株)	上原 浩嗣	161-0033 新宿区下落合 3-2-16-2F	http://www.alsoj.net
(株)エー・ティー・エヌ	小林小百合	161-0033 新宿区下落合 3-12-21 目白エミネス 102 号室	http://www.atn-inc.jp
(株)音楽之友社	堀内久美雄	162-8716 新宿区神楽坂 6-30	http://www.ongakunotomo.co.jp
(株)学研プラス(音楽事業室)	中村 公則	141-8412 品川区西五反田 2-11-8-15F	http://gakken.jp/ongaku/
カワイ出版(株)全音楽譜出版社カワイ出版部	亀田 正人	161-0034 新宿区上落合 2-13-3 全音楽譜出版社内	http://editionkawai.jp
(株)教育芸術社	市川かおり	171-0051 豊島区長崎 1-12-14	http://www.kyogei.co.jp/
教育出版(株)	伊東 千尋	135-0063 江東区有明 3-4-10 TFTビル西館	http://www.kyoiku-shuppan.co.jp/
(株)共同音楽出版社	豊田 治男	171-0051 豊島区長崎 3-19-1	http://www.kyodomusic.jp/
(有)ケイ・エム・ピー	片岡 博久	171-0043 豊島区要町 3-41-10 新東京観光ビル 2F	http://www.kmp.co.jp
(株)現代ギター社	廣瀬 利明	171-0044 豊島区千早 1-16-14	http://www.gendaiguitar.com
(株)サーベル社	鈴木 廣史	130-0025 墨田区千歳 2-9-13 ルックハイツ両国 1F	http://www.saber-inc.co.jp/
(株)ジャパン・ミュージックワークス	北村 嘉孝	101-0031 千代田区東神田 1-10-4 新川ダイユビル 902	http://www.at-elise.com/
(株)自由現代社	竹村 欣治	171-0033 豊島区高田 3-10-10 ドレミ・サーティース・メモリアル 5F	http://www.j-gendai.co.jp
(株)春秋社	神田 明	101-0021 千代田区外神田 2-18-6	http://www.shunjusha.co.jp
(株)シンコーミュージック・エンタテイメント	草野 夏矢	101-8475 千代田区神田小川町 2-1	http://www.shinko-music.co.jp
(株)鈴木楽器製作所	鈴木 禮子	430-0852 浜松市中区領家 2-25-7	http://www.suzuki-music.co.jp
(株)全音楽譜出版社	中村 尚雄	161-0034 新宿区上落合 2-13-3	http://www.zen-on.co.jp
(有)中央アート出版社	富澤 勇次	135-0006 江東区常盤 1-18-8 伊東倉庫(株)内	http://www.chuoart.co.jp
(株)東音企画	福田 成康	170-0002 豊島区巢鴨 1-15-1	http://www.to-on.com
東京書籍(株)	千石 雅仁	114-8524 北区船場 2-17-1	http://www.tokyo-shoseki.co.jp
(株)ドレミ楽譜出版社	山下 浩	171-0033 豊島区高田 3-10-10 ドレミ・サーティース・メモリアル 4F	http://www.doremi.co.jp
(株)日研(くおん出版)	吉川 秀雄	577-0065 東大阪市高井田中 3-8-5	http://nikken-p.com/kuon/
日本キリスト教団出版局	飯 光	169-0051 新宿区西早稲田 2-3-18-41	http://bp-uccj.jp/
(株)フェアリー	久保 貴靖	110-0004 台東区下谷 1-4-5 ルーナ・ファースト 4F	http://www.fairysite.com
(一般財)ヤマハ音楽振興会	大池 真人	153-8666 目黒区下目黒 3-24-22	http://www.yamaha-mf.or.jp
(株)ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス	播磨 洋介	171-0033 豊島区高田 3-19-10 昭栄高田馬場ビル	http://www.yamaha-meh.co.jp
(株)ライリスト社	岩間 昌一	466-0051 名古屋市昭和区御器所 1-6-24	http://www.lyrist.co.jp
(株)リットーミュージック	松本 大輔	101-0051 千代田区神田神保町 1-105 神保町三井ビルディング	http://www.rittor-music.co.jp

当協会では随時入会を受け付けております。条件は1.会社の業態として楽譜の出版及び販売を行っていることが明らかであること、2.本会の目的に賛同し、入会金並びに会費を納める者、の2点です。詳しくは事務局までお問い合わせください。

日本楽譜出版協会会報第 35 号 (2021 年 1 月発行)
 発行人: 佐々木隆一 理事長: 下條俊幸 編集人: 下條俊幸
 発行所: 一般社団法人 日本楽譜出版協会事務局
 〒 101-0021 千代田区外神田 2-18-21 楽器会館 4F
 電話 & FAX 03-3257-8797 Eメール ofc@j-gakufu.com
 ホームページ <http://www.j-gakufu.com>

この日本楽譜出版協会会報の定期購読をご希望の方は、送料のみのご負担で受け付けております。事務局までご連絡下さい。